

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

□巻頭言 / 酒井代表メッセージ・台風 19 号被害状況報告 … P1 □「もっと自動車リサイクル」シンポ … P2
 □自動車リサイクル士講習会 … P3 □東北、中国・四国ブロック合同会議 … P3 □北海道ブロック活動 … P4
 □関東ブロック会議 … P4 □鉄スクラップ最新情報 … P5 □行事予定・お知らせ … P6

vol.128

台風 19 号による被害を受けられた皆様へ

台風 19 号により被害を受けられた機構会員のみなさま、心からお見舞い申し上げます。

当機構として自動車リサイクルの関係者と連携を図りながら、できる限りの対応をしております。一日も早く復旧され平穏な生活に戻れることを心からお祈り申し上げます。

また、被災地以外の会員の皆さんには、今後の状況によって業界として「できること、やるべきこと」への協力をお願いすることがあると思います。このような事態にこそ皆で立ち向かいましょう。

令和元年 10 月 15 日

一社) 日本自動車リサイクル機構 代表理事 酒井 康雄

台風 19 号の被害状況

(2019 年 10 月 15 日現在の状況)

01

台風 19 号は、各地で記録的な大雨・暴風を記録し、東海、関東・甲信、東北地方においては河川の氾濫決壊等で大きな被害が出ております。当該地域ブロック長、各支部長より寄せられた被害状況を掲載いたします。

■1 都 15 県：総じて人的な被害報告はありませんでした。

■施設の主な被害状況

【福島県】

郡山市内の事業所にて床上 50cm の浸水被害あり

- ・ 電話 / FAX 等の機器が水没
- ・ 水道以外のライフラインに問題あり
- ・ 従業員の自宅に一部浸水被害あり
- ・ 運搬用の車載トラックが水没し、使用不可に

【宮城県】

仙台市内の事業所にて床上 70cm の浸水被害あり

- ・ 事業所全体が水に浸かった
 - ・ 電気はきているが電話機、PC が水に漬かり NG
- 白石市内の事業所にて土砂崩れによる被害あり
- ・ 事務所への被害はなかったが、工場へ 50cm ほどの土砂が流入

■今のところ特に大きな被害情報はなし

【東京都】【千葉県】【埼玉県】【神奈川県】【新潟県】【群馬県】【愛知県】
 【三重県】【岐阜県】【富山県】【石川県】【山梨県】【岩手県】【静岡県】



巻頭言

憎きは台風 19 号。今回の台風で被災された多くの方々には心よりお見舞い申し上げます。

当社に隣接する中央工業団地でも約 150 社全てが冠水し、その惨状は目を覆う有様です。高い所では 2m まで水が上がりました。幸い当社は水位が低い方で床上 50cm で留まりました。この工業団地では過去 2 度の大きな水害に見舞われていますが、当社の場所は水が上がることはなかったので、今回も水害よりも風対策ばかりに気を取られていました。

しかし、結果はニュースでの通りです。現代の気象は私達が考える過去の経験などはるかに超える予想もつかない「まさか」の脅威をもたらすものだとして実感しました。

〈広報部会 副部会長 田村 幸男〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋 3 丁目 2 番 2 号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 H P: http://www.elv.or.jp/

NACS シンポジウム「もっと自動車リサイクル」



公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS) の主催で「もっと自動車リサイクル」シンポジウムが10月11日(金)、自動車会館くるまプラザ開催されました。

このシンポジウムは、「もっと自動車リサイクル」冊子発行を記念して、自動車リサイクル制度に関わる多彩なステークホルダーが、資源循環の視点から自動車リサイクルについて学び、より一層限りある資源を大切に使うため、それぞれの状況や立場で出来ることを話し合う機会として開催されました。

当機構の酒井代表がパネリストとして登壇し、自動車補修用部品の普及に向け消費者の方に安心・安全に使っていただくため、リサイクル部品を生産した車の型式・車台番号・年式・部品の状態などを表示するラベリング規格化や自動車部品リサイクル協議会が運用しているグリーンポイントシステム開発(CO2削減)などの取り組みを紹介しました。

当日は、問題提起「SDGs & パリ協定が社会に求める変革とは～資源循環の側面～」と題して、環境省・資源循環局総務課リサイクル推進室 今井室長補佐の講演。

イントロダクション「自動車リサイクルでもっと消費者ができること」と題して、NACS 環境委員会 村上委員長より冊子の紹介と説明がありました。

パネルディスカッションでは、日刊工業新聞社・赤穂論説副委員長がコーディネーターを務め「自動車リサイクルを『もっと』進めていくためのパートナーシップにむけて」についてセッションごとテーマを討議しました。全国消費者団体連絡会からは「自らがリサイクル部品と出会い使った経験談」、自動車整備振興会連合会からは「リサイクル部品の利用促進に向けたパンフレットを作成して普及促進に活用」、自動車工業会からは「解体しやすい設計やユーザー向け動画や冊子などの情報発信」など様々なディスカッションが行われました。

最後に「今後に向けて」経済産業省・製造産業局自動車課自動車リサイクル室 藤岡室長より、新時代の自動車戦略(CASE: つながる、自動化、利活用、電動化)とSDGsの講演があり、自動車リサイクル法が15年経ち今後も継続して議論が必要だと締めくくられました。



■シンポジウムの開催報告はNACS環境委員会様のHP「開催報告」からもご覧頂けます。

http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/simpo_191011.html

・当日発表された資料もPDFで掲載されています。

自動車リサイクル士認定講習会開催（東京会場）

10月3日（木）4日（金）、今年度初回となる「自動車リサイクル士制度認定講習会」を東京会場（浅草橋ヒューリックカンファレンス）にて開催しました。

当日は、受講者87名、自治体や関係団体からのオブザーバー8名、講師・関係者12名、計107名が参加し、過去最大規模の講習会となりました。

昨年度に引き続き、自動車再資源化協力機構（自再協）のご協力を得て、全国の解体業者（約2,800社）へのFAXに加え、東日本の解体業者（約1,300社）へDMを送付しました。東京会場では受講者の半数を超える非会員（49名）の方が受講される結果となりました。

11月は、21日（木）22日（金）に盛岡会場（いわて県民情報交流センター）での認定講習会を予定しています。



ブロック活動報告

04

関東ブロック会議

10月9日（水）日本自動車リサイクル機構の会議室にて、「第1回関東ブロック会議」を開催しました。当日は、1都8県の各支部長・事務局並びにオブザーバーとして神奈川県から西山副理事長に参加いただきました。

最初に、酒井代表から台風15号による会員の被害状況及び日本自動車リサイクル部品協議会との合流に関する経過報告、次に、機構本部からの活動報告①産構審・中環審 第47回合同会議の報告、②自動車リサイクル高度化財団の受託事業



「ベースリサイクル率実態調査（中間報告）」「自動車リサイクル設計事例集の製作」、③自動車リサイクル士認定講習会の報告（東京会場）、④ガラ処理実態調査のアンケート結果報告が行われました。

関東ブロック支部制の移行及び組合活動については各支部長または代表者からの報告を受け、支部制は概ね順調に進捗していることを確認しました。地域が抱える課題として会費の納入方法や来年はオリンピック開催による活動日程の見直しなど活発な意見交換がなされました。

最後に、（株）アーネストのHVバッテリー共同出荷事業及び日産自動車・三菱自動車との使用済リチウムイオンバッテリーに関する意見交換を実施いたしました。

東北、中国・四国ブロック合同会議

東北・中四国ブロック合同会議が10月3日(木)に岡山県岡山市にある株式会社桃太郎部品(岸本 中四国ブロック長)にて行われました。当日は今年5月に新社屋を落成した同社の工場見学も兼ねて行われました。厳しい時代にも関わらず工場新設に踏み切った理由など、岸本社長に多くの質問が寄せられました。

また合同会議では、東北地区、中四国地区の使用済自動車の発生状況、市況など業界の関心事を中心に活発な情報交換が行われ、根本的な問題や課題は地域関係なく共通であることを再確認いたしました。



香川県豊島視察

翌10月4日(金)、一行はかつて日本最大の産業廃棄物不法投棄事件で名を馳せた香川県豊島の視察に向かいました。

豊島の視察は今回の合同会議の大きな目的のひとつです。東北のメンバーは初めて訪れる豊島に複雑な思いを寄せていました。当時の実態と不法投棄との闘いといった豊島の歴史を語ってくれたのは廃棄物対策豊島住民会議の安岐事務局長です。

安岐事務局長が語る当時の法律の盲点、人間の欲深さの話に「こんな風光明媚で美しい島でこんなことが起きていたのか」と皆、呆然としました。有志で造られた資料館には、当時の本物の産業廃棄物が展示されており、その経緯や歴史も写真展示されています。

香川・豊島にある廃棄物対策豊島住民会議の公式サイト
<http://teshima.ne.jp/wordpress/>

北海道ブロック活動

[1] 次世代プロジェクト活動

次の世代を担う若手経営者育成活動の一環として、「第1回パークゴルフ大会」を9月6日（金）に開催致しました。参加者は、北自協会員と鉄リサイクル工業会北海道支部青年部との合同開催で34名が参加、オール北海道で次世代を乗り切っていくため親睦を深めました。

[2] 「ミニさっぽろ（10月5日～6日）」へ参加

こどものまち「ミニさっぽろ」は、札幌市が主催する職業体験イベントです。一連の経済活動を「キッザニア」のような形態で小学3年生4年生を対象に開催されました。

参加者は、コンビニ等でチケットを購入し、イベントに参加。会場には、協賛会社の職業体験ブースが設営され、そこで職業体験をしていただき、対価が「ドーレ」という通貨で支払われます。館内での買い物は、全てドーレです。

北海道自動車処理共同組合は、自動車リサイクル処理の一つとして「エンジンコンピュータの分解・分解後素材選別・選別後組立の仕事」を532名というたくさんの子どもたちに体験していただきました。



〔第1回パークゴルフ大会〕



〔ミニさっぽろ
/ エンジンコンピュータの分解・分解後素材選別・選別後組立のお仕事体験〕



様々な体験機会を通して
子どもたちが将来の夢について考え
豊かな育ちを促進する。
それが、こどものまち「ミニさっぽろ」です。



ミニさっぽろ公式ホームページ <http://www.mini-sapporo.com/>

九州ブロック会議

10月19日（土）、TKP ガーデンシティ（福岡県福岡市）にて「第3回九州ブロック会議」を開催しました。

当日は、九州ブロック各地域の代表者のほか、オブザーバーとして熊本大学外川教授にも参加いただきました。

内容としては、本部報告や各地域の状況報告が行われ、終了後に懇親会も開催しておおいに盛り上がりました。

次回は、来年は1月に開催予定です。



10月第3週(21日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



10月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	22,000～23,000	弱含み
	南関東	22,000～23,000	弱含み
名古屋		21,500～22,500	弱含み
関西	大阪	22,000～22,500	様子見
	姫路	21,000～22,000	様子見

国内の鉄スクラップ市場、先安観あり軟調様子見

国内市場の鉄スクラップ市況は、電炉筋の間で10月9日以降、1トあたり500円どころの値下げ改定が広がってからは目立った値動きは見られず、軟調さを残しつつ概ね様子見商状の推移が続いている。ただ、地域によっては荷余り感が強く、電炉筋の荷止や荷受制限が見られるほか、追加値下げの動きが散発する状況だ。国内の電炉鋼生産は減産基調が続き、鉄スクラップ需要は減少傾向だ。地域ごとに生産水準の差が見られるものの、国内鋼材需要が低迷し、ビレットなどの輸出市場も不振が続いているため、全体としては減産下であり、鉄スクラップ需給は緩和している。また、輸出価格が続落したことを受けて、10月の東西テンダーの落札価格はそれぞれ値下がりしている。韓国の現代製鉄が前週の商談をスキップするなど、海外からの引き合いも弱い。

その一方で、関東市場では北関東を中心に電炉入荷に不足感が出ており、荷余り感が強い南関東と対照的な動きを見せている。市中スクラップの発生・荷動きに勢いがいないことや東北のJFEスチール仙台の操業再開などで市中スクラップの流通に若干の変化が出ていることなどが要因とみられる。ただ、こうした事例は一部にとどまっており、国内全体としては需給が緩く、先安観が払拭できない環境が続いている。

【関東地区】 南関東で荷余り感が強い一方、北関東電炉の一部では不足感

関東市場の鉄スクラップ市況は、電炉間で10月9日からの値下げ改定が浸透してからも、軟調さを残したままの相場推移となっている。特に南関東市場では、電炉筋の減産や湾岸商社・シッパー筋の引き合いが弱い一方、市中問屋筋が出荷繰りを急いでいるため、荷余り感が強い。北関東市場では入荷に不足感が出ている筋がある。10月21日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は22,000～23,000円中心。H2浜値は21,500円中心。

【東海地区】 メーカーは購入価格を据え置き様子見姿勢で10月第4週へ

名古屋地区の電炉メーカーは、購入価格を据え置き様子見姿勢で10月第4週を迎えた。ただ、市況環境難から、なお先安感が強いまま10月下旬に入ると見る向きが大勢だ。海外ではトルコ向けの反発で米国玉が上向く気配にあるなど、輸出価格の動向が注目されている。しかし、世界経済の減速による鋼材需要の不振もあり、市況の急展開を期待する向きはなお少ない。10月21日時点のH2炉前実勢価格は21,500～22,500円中心。

【関西地区】 内外に不安材料残り安定感を欠く展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は膠着状態となっている。先行きへの警戒見通しは残しつつも、市況の下落には一旦、ブレーキがかかりつつある状況だ。ただ、「トルコ相場の上昇は一時的な手当てにとどまることも考えられる。今のところ確固たる指標もなく、不安定な展開には変わりない」(商社)と慎重な意見が多い。10月21日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が22,000～22,500円中心、姫路地区が21,000～22,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月21日午前時点のもの)

行事予定

November

ー 11 月の主な行事予定ー

■11月13日(水)
自動車メーカー・車体メーカー工場見学会

■11月14日(木)
第7回 広報部会
近畿ブロック会議

■11月20日(水)
第6回 常任役員会

■11月21日(木) 22日(金)
自動車リサイクル士認定講習会(盛岡会場)

お知らせ HV バッテリー共同出荷事業の報告とお知らせ

本事業は、2017年度よりスタートし今年度で3年目となりました。2019年度も継続して参加いただきました会員の皆さまに感謝申し上げます。

■2019年度上期事業報告(2019年4月～2019年9月)

参加 事業者	集荷量(台)					
	プリウス 20	プリウス 30	プリウス α	アクア	不良品	合計
35 社	176	114	2	45	56	393

■2019年度事業変更内容のお知らせ

2019年10月1日集荷分より、集荷車種並びに価格の一部変更が行われました。

【集荷車種の追加】

カローラアクシオ/フィルダー、レクサス GS450H、クラウン、SAI/レクサス HS250H、カムリハイブリッド、デュトロ

※一部価格の変更につきましては、(株)アーネスト様より FAX にてご案内されます。

【問い合わせ先】(株)アーネスト コア担当 加藤様(携帯 090-2903-4805)

編集後記

台風19号が日本列島各地に甚大な被害をもたらしたことは、もはや語る必要はないでしょう。特に今回の台風は意表を突いた進路で進み、多くの河川が氾濫し、周辺の地域に浸水等の被害をもたらしました。政府をはじめとする地域行政もこぞって注意喚起を促してはいましたが、それにも関わらず、多くの家屋が浸水し、その変わり果てた我が家を前に落胆する家族の映像は、見ていて本当に気の毒で仕方がありませんでした。自然災害とはいえ、あまりにも惨い仕打ちと思うのはきつと私だけではないでしょう。被災者の皆様には心からのお見舞いを申し上げる次第です。

ここ近年、立て続けに発生する自然災害は目に余るものがあります。それに対し、いったい我々はどんな心構え、もしくは準備をすればよいのでしょうか。多くの被災者はこぞって「想定を越える大きさだった」「想定していなかった」と話されています。そこから鑑みて、私達が教訓とすべき事は「常に想定をしておく」ことではないのでしょうか。被害を最小限に留めるための妙法とは、この考え方に尽きるように思います。

(広報部会 部会長 永田 則男)